

1. 略歴

1985年3月	東京大学文学部中国哲学専修課程卒業（文学士）
1987年3月	同 大学院人文科学研究科修士課程修了（中国哲学）
1987年4月	東京大学東洋文化研究所助手（東アジア第一部門）
1992年4月	徳島大学総合科学部講師（総合科学科）
1994年4月	同 助教授（人間社会学科）
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授（中国思想文化学）
2007年4月	同 准教授（中国思想文化学）
2013年4月	同 教授（中国思想文化学）

2. 主な研究活動**a 専門分野**

中国思想文化史、王権理論の展開および儒教の教化論

b 研究課題

- (1) 中国における朱子学・陽明学の思想的形成と社会的展開。
- (2) 中国皇帝制秩序を支える王権儀礼とその理論。
- (3) 日本における儒教思想の流入とその社会的効果。
- (4) 東アジアの伝統思想における尊厳概念。

c 概要と自己評価

概要：中国思想文化史研究として、宋代の儒教において生じた新たな思想潮流と、それが朱子学に集約していく様相を中心に研究してきた。また、その延長線上にいわゆる中世以降の日本における朱子学の受容と独自の展開についても扱い、特に王権論の観点から天皇制に関わる思想的・儀礼的事象を探究している。また、尊厳概念の比較思想的研究を課題とする科研の共同研究プロジェクトに加入して東アジアの伝統思想について考察を進めている。

自己評価：2018～2019年度は上記4つの研究課題のうち、(3)と(4)について研究成果を公表できた。特に2019年5月の天皇代替わりと改元にもなつてこれに関する知識への社会的需要が高まり、出版・執筆・取材・講演などの形で知見を提供して社会貢献ができた。

2019年度は副研究科長としての業務におわれて自身の研究が計画どおりには進展しなかった。

d 主要業績**(1) 著書**

- 単著、小島毅、『天皇と儒教思想』、光文社、2018.5
編著、小島毅、『知の古典は誘惑する』、岩波書店、2018.6
単著、小島毅、『志士から英霊へ——尊王攘夷と中華思想』、晶文社、2018.6
単著、小島毅、『父が子に語る日本史』、筑摩書房、2019.10
単著、小島毅、『父が子に語る近現代史』、筑摩書房、2019.11
編著、加藤泰史・小島毅（共編）、『尊厳と社会（上）』、法政大学出版会、2020.3
編著、加藤泰史・小島毅（共編）、『尊厳と社会（下）』、法政大学出版会、2020.3

(2) 論文

- 小島毅、「明治後半期の陽明学発掘作業」、『日本儒教会会報』、2、55-70頁、2018.1
Kojima Tsuyoshi、「The Establishment of the Study of Chinese Philosophy in Japan」、『Acta Asiatica』、117、21-29頁、2019
小島毅、「靖国神社のついで語り——明治維新百五十年で変わりうるか」、堀江宗正（編）『宗教と社会の戦後史』、pp.151-173、2019.4
小島毅、「士大夫たちの思念を求めて」、渡邊義浩編『学際化する中国学』、2019.6
小島毅、「近代における朱子学・陽明学」、『講座 近代日本と漢学 第4巻 漢学と学芸』、戎光祥出版、pp.132-145、2020.3
陳健成・小島毅、「伝統中国における梅の表象」、『尊厳と社会（上）』、pp.211-231、2020.3

(3) 啓蒙

- 小島毅、「江戸に寄寓した士大夫（難者問邪1）」、『UP』、553、pp.12-17、2018.11

- 小島毅、「湊川で神になった悪党（難者問邪2）」、『UP』、556、pp.27-33、2019.2
小島毅、「孟子か荀子か——人間観の二類型」、『研究東洋』、第9号、pp.10-11、2019.2
小島毅、「吉野に拉致された天皇（難者問邪3）」、『UP』、559、pp.40-45、2019.5
小島毅、「応天府で即位した皇帝（難者問邪4）」、『UP』、562、pp.14-20、2019.8
小島毅、「ソウルで論争したソンビたち（難者問邪5）」、『UP』、565、pp.36-41、2019.11
小島毅、「マラトンから走った伝令（難者問邪6）」、『UP』、568、pp.41-45、2020.2

(4) 研究報告書

- 小島毅、「東京大学草創期とその周辺 「東大教授中村正直——漢学者は洋学もこなす」」、pp.113-119、2019.3

(5) 監修

- 小島毅、『世界史大図鑑』、三省堂、2019.2

(6) マスコミ

「同級生交歓」、『文藝春秋 96 巻 12 号』、2018

「儒教」、『J-WAVE : JAM THE WORLD の UP-CLOSE コーナー』、2018.3.13

「「新しい時代区分」が必要だ 保立道久／加藤陽子／小島 毅」、『文藝春秋 96 巻 6 号』、2018.5.21

「五・二六 小島毅氏講演会「靖国神社の源流」」、『政教分離』、政教分離の侵害を監視する全国会議、2018.6.25

「58 年かけ全 120 巻「新釈漢文大系」完結」、『朝日新聞』、2018.7.11

「『志士から英霊へ』を書いた小島毅氏に聞く」、『週刊東洋経済』、2018.7.28

「不可解な” 禅譲” 非民主的」、『朝日新聞』、2018.9.21

「薩長のための靖国神社」、『月刊日本』 22 巻 11 号、pp.55-59、2018.10.22

「備前で古典フォーラム——すぐ役立たないから必要」、『山陽新聞』、2018.11

「元号 1300 年超の歴史」、『朝日新聞』、2019.3.11

「元号 1300 年超の歴史」、『朝日新聞』、2019.4.1

「東アジアの元号」、『朝日新聞』 号外 3 面および夕刊 3 面、2019.4.1

「新元号決定」、『新潟日報、愛媛新聞、北日本新聞、東奥日報、信濃毎日、岩手日報、長崎新聞、静岡新聞、福井新聞、北海道新聞、神奈川新聞、山形新聞、中国新聞、山陰中央日報』など、2019.4.2

「「令」「和」次代への思い映す」、『朝日新聞』 3 面、2019.4.2

「「令和」典拠の万葉集序文」、『北海道新聞』 32 面、2019.4.5

「「令和」ぬぐえぬ違和感」、『朝日新聞』 28 面、2019.4.10

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本中国学会、副理事長、2015.4～

国内、日本儒教学会、理事（常務委員）、2016.5～

国内、中国社会文化学会、理事長、2017.7～2019.7、理事、2019.7～